

令和6年度山口県医師会予防接種医研修会

「HPVワクチンの副反応の現状や対応」

とき 令和6年6月2日（日）14:15～15:15

ところ 山口県医師会6階会議室

（Zoom「ウェビナー」を使用したWeb方式併用）

〔講演及び報告：山口大学大学院医学系研究科整形外科学
准教授 鈴木 秀典〕

子宮頸がんは若年者に多いがんであるが、治療としては手術による子宮全摘あるいは放射線治療が必要で、妊娠の可能性が失われることになる。その発症にはHPVが関与しており、感染と消失を繰り返しながら一部で進行、がん化する。子宮頸がんは発がんの自然史がわかっていること、前がん状態が存在すること、有効な検査が確立していること、予防ワクチンがあることなどから予防可能がんである。

HPVワクチンの有効性については科学的に十分に証明されており、近年、子宮頸がんの発症を低減させることができることが各国から報告されている。さらには、より若年でのワクチン接種が、その発症率をより低下させることも証明されている。キャッチアップ世代でのHPVワクチン接種でも十分に前がん状態の発症を低下させることも証明されている。

キャッチアップ接種の公費接種期限は、令和7年3月までであり、3回の接種を無料で受けとなると、令和6年9月中に1回目の接種を開始する必要があり、行政を中心にさまざまな啓蒙活動がここ最近、活発に行われている。

具体的には、令和4年度は定期接種及びキャッチアップ接種とも全市町で個別通知を実施されており、また、令和5年度は、市町によって通知する対象者を絞っている場合もあるが、定期接種では全市町、キャッチアップ接種では15市町で個別通知が実施されている。子宮頸がんを予防するためには、ワクチンだけでなく検診の重要性も伝えていくことも重要と考えられ、令和5年9月には、「女性のがん対策」として山口県知事から県民に向けてメッセージが発信されており、県

ホームページに掲載などされている。山口県では、今後も市町や医療関係団体と連携し、より多くの方へワクチン接種の有効性の周知を行い、実際にワクチンの接種行動に繋がるよう勧奨を行っている。

HPVワクチン接種においては、その副反応に対するさまざまな報道が、世間に強い拒否反応を生じさせるに至った経緯がある。

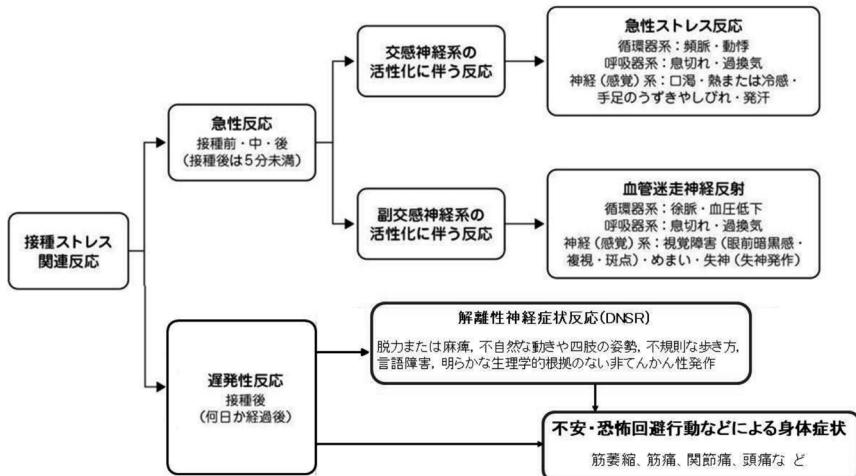
副反応を理解する上で、接種後ストレス関連反応（ISRR）の概念を十分理解する必要がある（資料1）。接種後しばらくしてから起こる反応には、解離性神経症状反応もある。HPVワクチン接種後にみられた症状や頻度などについては資料2～4に示す。

HPVワクチンの接種後に報告されている「多様な症状」を理解する上では、機能性障害という概念を理解する必要がある。厚労省研究班でのHPVワクチン副反応の実際のデータを示す（資料2～4）が、接種部位の痛みだけでなく全身性のさまざまな症状が遅発性に生じていることが理解できる。厚労省研究班の疫学研究データからは、接種の有無にかかわらず、同年代の女性には同等頻度生じることがある症状であることも示されており、HPVワクチン接種が本当にこうした症状を誘発したのかどうかについては不明であるとの結論に至っている。

いわゆる接種医・かかりつけ医（Firstタッチ医）の基本的な役割と診療姿勢についても大変重要である。Firstタッチ医は、ワクチンのメリットやISRRの出現も含めたデメリットについて十分理解するとともに、保護者だけでなく接種される本人自身が納得し、同意・署名を得た上でワクチン

接種後ストレス関連反応(ISRR) とは？

ISRRの特徴は、ワクチン接種への不安や注射針への恐怖や痛みなどにより、接種の前後に過呼吸やめまい、痛み、不随意運動、しびれ、手足の動かしにくさなどを起こすもの。



World Health Organization: Immunization stress-related responses, 20 December 2019 Manual
<https://www.who.int/publications/item/9789241515948>

資料1

HPVワクチン接種後に出現した疼痛の部位や発症頻度

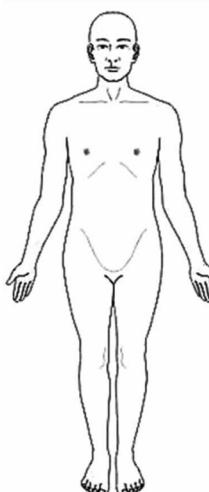
注射部位の持続的な痛み 0.9% (n=2)

頭痛 45% (n=92)

肩痛 27% (n=55)

腰痛 28% (n=56)

膝痛 33% (n=68)



上肢	49%	(n=10)
上腕	19%	(n=39)
肘	18%	(n=36)
前腕	16%	(n=33)
手関節	15%	(n=31)
手掌	14%	(n=28)
手指	20%	(n=28)
下肢	3%	(n=7)
股関節	15%	(n=30)
大腿	15%	(n=31)
下腿	22%	(n=44)
足関節	16%	(n=32)
足部	12%	(n=25)
足趾	9%	(n=18)
腹痛	17%	(n=34)
全身痛	3%	(n=7)

牛田享宏(研究代表者) 厚生労働行政推進調査事業費補助金慢性の痛み政策研究事業「慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究(H27-30年度)」平成27年度成果発表会
<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000116636.html>
 平成28年3月16日(水) 15:00 17:00 於厚生労働省共用第6会議室 「慢性の痛みとHPVワクチン接種後の痛みについて」
https://www.mhlw.go.jp/stf/file/05_Shingi2/1091000_Kenkoukyoku-Soumuka/0000116635.pdf

資料2

接種することが望ましい。また、これらの位置づけから、First タッチ医は接種後に副反応が出現した際の初期対応を担うことが望まれる。いずれにしても、ワクチン接種全般に言えることではあるが、副反応を考える上で、重篤な基礎疾患合併の可能性についても常に考慮しておく必要がある。

実際の HPV ワクチン副反応患者は、「いたみ」を主訴に来院するが多く、重篤な症状の患者の場合には、慢性の痛み政策研究事業（<https://paincenter.jp/>）のメンバーが中心となってその対応を行っている。現在、中国地方の集学

的痛みセンターは、山口大学ペインセンターと岡山大学病院運動器疼痛センターの2つが設置されている。

センターだけでは対応できない慢性の痛みで悩む患者も多く、中国地方全体での診療連携体制の構築が重要であり、そのためのさまざまな研修会などが山口大学ペインセンターなどでは主催されており、こうした患者の対応のためにも、多くの医療スタッフの研修会参加などが望ましい状況である。

HPVワクチン接種後にみられた症状

症 状	あ り	な し
筋力低下	14%(n=15)	86%(n=90)
感覚鈍麻	5%(n=4)	95%(n=76)
触覚異常	8%(n=12)	92%(n=138)
異痛症（アロテニア）	5%(n=8)	95%(n=140)
発熱	19%(n=29)	81%(n=125)
関節腫張	4%(n=6)	96%(n=139)
	亢 進	正 常
四肢腱反射	2%(n=2)	98%(n=122)

牛田幸宏（研究代表者）厚生労働省行動推進課事業費補助金慢性の痛み政策研究事業「慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究（H27-30年度）」平成27年度結果発表会
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/0000116836.html>
 平成28年3月16日（水）15:00 17:00 斎厚生労働省共用第6会議室）「慢性の痛みと HPV ワクチン 接種後の 痛みについて」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/0000116835.pdf>

資料3

HPVワクチン接種後にみられた症状

症 状	あ り	な し	回答なし
全身倦怠感	71%(n=119)	29%(n=48)	n=13
睡眠障害	50%(n=83)	50%(n=83)	n=10
めまい	56%(n=91)	44%(n=71)	n=16
吐き気・嘔吐	40%(n=64)	60%(n=96)	n=17
たちくらみ	69%(n=110)	31%(n=49)	n=13
起立持続時の悪心、卒倒	32%(n=46)	68%(n=96)	n=10
湯船から上がる時の脳貧血	42%(n=59)	58%(n=82)	n=16
ちょっとした運動での動悸	45%(n=69)	55%(n=86)	n=17
朝起き不良で午前中不調	66%(n=102)	34%(n=53)	n=19

牛田幸宏（研究代表者）厚生労働省行動推進課事業費補助金慢性の痛み政策研究事業「慢性の痛み診療・教育の基盤となるシステム構築に関する研究（H27-30年度）」平成27年度結果発表会
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/0000116836.html>
 平成28年3月16日（水）15:00 17:00 斎厚生労働省共用第6会議室）「慢性の痛みと HPV ワクチン 接種後の 痛みについて」
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisaku/0000116835.pdf>

資料4